

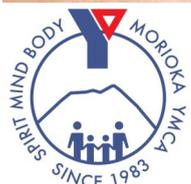
MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

2014年3月号 冬の恒例イベント！田沢湖スキー場雪まつり♪



発行人：濱塚有史 編集人：家村知佳 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1
TEL 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>

「ベスト・キッズに入って」

中嶋 奎太 (盛岡YMCAベスト・キッズOB)

みなさんこんにちは。なかしまです。私は今大学2年生です。私が盛岡YMCAに入ったのは小学校4年生のころでした。当時はただ単純にサッカーが楽しくて、周りの友達やリーダー達が面白すぎて、ずっとこんな風に楽しくサッカーしていたいなって思っていました。だから、ベストキッズの存在は知っていましたが公式戦などの試合はあまり出たいなって思っていませんでした。しかし、周りの友達がベストキッズに入り、話を聞くにつれて、だんだん自分も試合に出たいな、とか、もっと上手になりたいな、とか様々な思いを抱くようになり、遅かったのですが小学校6年生でベストキッズに入りました。

ベストキッズに入ってから新しい刺激が多く、私のサッカーへの情熱がどんどん高まりました。新しい友達とサッカーをしたり、合宿をしたり、試合に出たり、毎日が楽しく、毎日がサッカー漬けの日々でした。練習も普段のサッカースクールとは違うもので、時には辛く、大変なものもありました。しかし、ベストで練習し、自分が以前できなかったプレーができたり、サッカーの知識がどんどん増えていったり、自分の力になってるなあと感じ、とても充実していました。

ベストキッズは、他のサッカーチームとは違うところがあります。それは「自分たちで考える」ということです。他のチームは監督がここがダメだったから次はこうしなさい、とか、こういう戦術なら勝てる、とか監督が言ったことを選手がやるというのが基本だと思います。しかし、ベストキッズではそれら全てをまず自分たちで話し合います。練習ひとつひとつでも上手いかない時は話し合い、試合でも、どうしたら勝てるのか、どうすればミスを少なくできるか、また試合後もどこがダメだったのか、どうしてこのプレーが上手いき、または上手いかなかったのか、すべて話し合います。監督はその話し合いの結果を踏まえた助言やアドバイスをいう、というスタイルです。これは中、高、大とサッカーをしていて本当にためになりました。

盛岡YMCAベストキッズに入り、技術も、人間的にも多くのことが成長でき、とても充実し、楽しい日々を送ることができました！

YMCAの友達、リーダー、しんたろう、はまちゃん、YMCAに携わっている人々のみんなに出会えたことが自分にとって最高の宝物であり、最高の思い出です。

盛岡YMCAもスキーおさめ！

＊ スキー&雪まつり体験キャンプ ＊

2月22日(土)から23日(日)にかけて、秋田県の田沢湖スキー場にて、スキー&雪まつり体験キャンプが行われました。リーダー5人、子ども15人での一泊二日でした。

朝の集合時からみんなの元気な姿を見ることができました。今年度最後のスキーということで、スキー前に全員の掛け声で気合をいれました。「YMCAー!」「GO!!」とみんなの声がゲレンデに響き渡りました♪スキーでは、初リフトに挑戦する子がいたり、モフモフのコースを疾走するグループがあったり、急な斜面を滑るところがあったり、いきなりふざけ倒すリーダーがいたり(笑)などなどなど…。様々な楽しいことがありました。

スキーと一緒に雪まつりにも行こうということで夜には雪まつりに参戦してまいりました。たくさんの人たちでにぎわっていましたよ♪出店ではいろんなものが売られていて、子どもたちはお小遣いを使って買い物をしていました。気になる商品もたくさ

んありました。その後はスキーヤーによる火の輪くぐりをみんなで見ました。次々と繰り出されるジャンプの数々には驚きの連続でした。そしてなんと！スキーヤーの中にわれらがひげたまごリーダーの姿が！素晴らしいジャンプを見せてくれました。みんな大喜びです。続いての花火。迫力満点でした。こちらに迫ってくるようにも見た花火は我々に感動をもたらしてくれました。「す、すげー!」と思わず声ももっていました。リーダーも含め全員が雪まつりを堪能していました。あつという間の二日間でしたが、みんなの笑顔がたくさん見ることができました。とてもいいキャンプになったと思います。

次回もたくさん笑顔を見ることができればと思います。

盛岡大学栄養科学科栄養科学部1年

小菅 友輔(わらびリーダー)



↑ さあ！たくさん滑るぞー！！



↑ 雪の壁があったら... そりや登るよね♪



↑ 田沢湖が見えるほどの晴天！絶景だ！



↑ 今年はなんてたって オリンピックイヤーですから！



↑ ゲレンデに浮かぶ 炎の「夢」という文字



↑ こうやって中にも入れちゃうんだ！ おもしろい雪像がたーくさん♪



↑ 雪まつりのくじ引きでゲットした銃を構え...「おとなしく手を上げろ!!」



← 帰りのバスではグッスリzzZ 全身全霊を尽くし、遊んできました！

↑ 捕まっちゃった～ 「雪の鳥かご」

「雪満喫の一日 小鹿公園（おがこうえん）」

先日の大雪の直前、2月8日に盛岡に雪あそびに行きました。ほどよく締まった雪はソリ滑りの絶好のコンディション！坂のテッペンから雪けむりを上げ、勢いよくソリが滑ってきます！東京から夏にも来てくれた清泉女子大学YMCAのリーダー達は、子どもたちよりも元気よく(!?)遊んでいました。また地元盛岡YMCAリーダーも雪あそびにかけては負けていません。普段雪のたくさん降らない宮古の子どもたちにとって、滑っても楽しい！こけても楽しい！雪のトンネルも楽しい！思う存分遊びまくりました。ソリをつなげて「トレイン滑り」やちょっと怖い「正座滑り」と、思いおもしろい滑りを見せてくれました。中でもジャンプ台からの「ラージヒル」は脚を大きく広げてK点越え(!?) 金メダルをプレゼントしたくらいです。雪の感触を楽しんでいるのか、「しあわせ〜」というニコニコ笑顔で「いもむし」のようにゴロゴロし続ける女の子が印象的でした。リーダーたちも子どもたちが楽しんでる姿を見て、いつも以上の盛り上がりようです。2年間続けたこのプログラムも、宮古アドベンチャークラブの恒例プログラムになりそうです。

このあとしばらく続く記録的な大雪も、子どもたちには宝物ですが、そうではない人たちもたくさんいらっしゃいます。楽しんだ次の日から、学生たちと仮設住宅や高齢者宅の雪かき作業を連日がんばりました。

宮古ボランティアセンター長 木田 泰之



↑ こんなに雪があるなんて!!
何か巨大なものを制作中!!



見よ！これぞ、金メダル級のジャンプ☆ ←



↑ 楽しさのあまり、寒さなんて忘れてしまうほど!

宮古での活動実績

(1月末日のべ人数)

☆受益者数 67,372人
☆ボランティア数 26,280人



☆ リーダー紹介☆ その⑮

はい！ぜんまいざむらいこと、盛岡大学栄養科学科栄養科学部1年の佐藤将隆（さとう まさたか）です！今回は誰もが知っている盛岡YMCAのクール&ビューティー「あさり」を紹介したいと思います！

あさりの本名は安久津里彩（あくつ りさ）と言います。実は僕、わりと最近まで知りませんでした。彼女ははるばる山形からこの岩手の地へとやってきました。そして現在は盛岡大学の児童教育学科に通う大学1年生です。僕があさりと初めて会った時の第一印象は、大人しくてクールな女性という感じでした。常に冷静でいて、心に余裕をもっていて、でもやるべきことに一生懸命で仕事に熱いと言った感じでした。また、笑いのセンスも良く、子供たちとの接し方も慣れを感じさせ、「絶対先輩だ！」と思ったのが僕とあさりの出会いでした。それから何度か活動を共にし、大学でたまに会ったりしていく中で、実は天然でお茶目なところがあることを知りました。そして、あさが僕と同級生だと知ったのが夏の終わりだったと思います。でも本当に大人びているんですよ！そう思うのは僕だけですかね？活動でのあさは仕事をテキパキこなし、子供たちのこともよく見てとても尊敬しています。またリーダーを楽しませるのも上手で、持ち前の天

然を活かしてよく笑わせてくれます。まあ、笑いのセンスは僕の方が上ですけど。あと、気づかいがすごいと思います。周りをよく見ていて、その場に合った空気を読んだ行動ができるのは僕には真似できないあさりの技だと思います。これを女子力と言うんですね。

残念ながらあさりのプライベートのことまで僕は知らないの、紹介できるのはこままでになります。ごめんなさい。でも、僕の紹介を読んで少しでもあさに興味をもってくれた方がいたら嬉しいです。以上、ぜんまいざむらいでしたっ！

文責 盛岡大学栄養科学科栄養科学部1年 佐藤将隆（ぜんまいリーダー）



私があさりだよ!!!



ぼくがぜんまいです!



こぼれ種34 『'病い'と'病人'』

日本基督教団内丸教会牧師(元日本YMCA同盟 主事) 中原 真澄

2月に9日ほど九州や東京に住む親戚、知人を訪ねてきました。私の場合、キッチリ計画した「旅行」もしますが、個人的には「いきあたりバツたび」が好きで、今回もそんな「旅」でした(ついでですが、「人」ではなく「目的」地を見て回るだけの「観光」は未体験です)。

その1日、熊本の山あいに従妹を訪ねました。5年前に肺癌が、それもありかなり危険な場所に見つかった時は、いつ亡くなってもおかしくない状況だったのです。術後間もなく熊本市の病院近くに訪ねた時も、気力は衰えない様子でしたが、6回目の今年は機関銃のようなトークに姉も私もタジタジとなる程でした。

最初の一連の治療を終えて彼女は、兄姉の反対を押し切り、父を取った山間の実家に戻り、馴れ親しんだ自然の中で1人で生きる道を選んだのです。今年はゲートボールの世話役を押しつけられそう...と言う彼女に、体の不自由は残るものの、病気の影は見当たりませんでした。

常識では医療環境の整った所で養生するのが当たり前ですが、彼女は親戚や幼馴染みに助けられつつ、親しい環境の中で生きることを選んだのです。「あなたは病いには罹ったけど、病人には一度もならなかったわね」と姉が言う。「そう、そんな積もりは一度もなかったから」と、スックリ片付いた部屋を見渡しながらか彼女は答えました。

YMCAが目指す目的の1つは、たとえ病気になるでも病「人」ではない、1人の人間として共に生きていく、こうした「関係性」を創り上げていくことではないでしょうか。かつてはどこにでもあった「地域」が失われてきた今こそ、求められる働きだろうと思うのです。

イエスは「シモンの家にお入りになった。シモンのしゅうとめが高い熱に苦しんでいたので、人々は彼女のことをイエスに頼んだ。イエスが枕もとに立って熱を叱りつけると、熱は去り、彼女はすぐに起き上がりて一同をもてなした。(ルカによる福音書4章38、39節)」

～お知らせ～

宮古ボランティアセンターの活動を、FMうらやすのラジオ番組「新井昌和とパニークラッシュ!」にて取り上げていただけることになりました!

視聴エリア外でも、「サイマルラジオ」や「ユーストリーム」といったウェブサイト、ネット上で視聴することも可能とのことです。放送は3月9日の午後2時からです。みなさん、ぜひお聞きください♪



♡ 2月サンデースクール 「バレンタインクッキング」

2月のサンデースクールは2月2日(日)におでつての生活アトリエで「バレンタインクッキング」が行われました。今回は子ども14人、リーダー5人でなんとお菓子の家づくり!!

初めに飾りつけのクッキーを作りました。材料をみんなで順番にこねていき、生地ができたなら、型を使ったり色をつけたりと思いついたように作っていました。そして、クッキーを焼いている間はお家の土台や壁などを作りました。女の子たちはグミや生クリームを上手に使ってカラフルに、男の子たちはとてもユニークで大胆にお家を作っていて、それぞれ夢が詰まったお家を完成させました。自分たちで作ったクッキーもとてもかわいくでき、みんなでおいしく食べました。

クッキーはお家でも手軽に作ることができるのでぜひホワイトデーに作ってみてください! 次回は今年度最後のサンデースクールになります! 「火も包丁も使わない料理」を作

りますよ! お友達を誘っての参加をお待ちしています☆

文責:盛岡大学文学部児童教育学科2年 嶋崎恭子(ハードルリーダー)

→カラフルでかわいいおうちができたよ!



←クッキー作りも工夫を凝らしたものがたくさんできました!

～表紙の写真より～



スキー&雪まつり体験キャンプでの1枚。雪まつりでの雪像の中に、何ともかわいいハート型を発見♡みんなも手で♡を作って記念撮影! (2月22日)

3月予定

★3月9日(日)13:00-16:00
サンデースクール
「火も包丁も使わない料理」
(於:おでつて5F生活アトリエ)

★3月16日(日)
フットサル大会
(於:盛岡大学)

★3月29日(土)～31日(月)
3月アドベンチャー
「2泊3日思い出の湯分校キャンプ」
(於:秋田県仙北市思い出の湯分校)

☆3月18日(火)
火曜水泳場所変更(ふれあいランド)

感謝

2013年年度 順不同・敬称略

●東日本大震災被災地支援

募金・献品

南原良哉、林間つきみ野教会、味岡葉子、飯靖子、日本アーティストユニオン、茨城YMCA、宮古市魚菜市場青年部、菊池崇江、大阪YMCA松尾台幼稚園、木下恵合子、大甲学院、伊藤眞一郎、ワイズメンズクラブ東日本区北東部、ワイズメンズクラブ西日本区、横浜YMCA東とか保育園、東光高明、青山学院女子短期大学、宗教活動センター

●寄附金

花田瞳、佐藤翔、高瀬裕彦、杉田弘美、古和田周吾、及川茂夫、及川恵、一戸貞文、早坂春希、伊藤克見、清水弘一、吉崎陽、川守田浩、中屋重正、今松桂子、増田隆、水田賢次、石渡隆司、今野健男、今野聖子、濱塚有史、濱塚真美、重彦、菊池弘生、光永尚生、池上正、魚住英昭、学校法人カナン学園、原寛、越前谷洋子、深澤秀男、中島敬泰、中原真澄

●国際協力募金

(ワイリピン)台風30号 被災地復興支援募金

花田瞳、角谷晋次、角谷千代子、山澤美和、松尾聡子、石崎一之、池田二郎、佐藤翔、高瀬裕彦、杉田弘美、長岡正彦、名古屋恒彦、熊谷力實、大関靖二、熊谷太、古和田周吾、及川茂夫、及川恵、一戸貞文、早坂春希、伊藤克見、鬼柳忠彦、濱塚れい子、清水弘一、谷藤敏多、吉崎陽、重石桂司、川守田浩、藤原直子、田村治之、北田アユ子、熊谷一郎、岩崎スエ、今松桂子、斎藤穂太、桑原良幸、増田隆、佐藤淳史、佐々木多恵、守男、水田賢次、石渡隆司、今野健男、今野聖子、菊池裁翔、清水治彦、濱塚有史、濱塚真美、濱塚恵太、花松行雄、長谷川精一、井上修三、井上優子、井上浩太郎、菊岡孝匡、伊藤眞一郎、小山憲彦、小畑孝子、菊池弘生、光永尚生、池上正、ロン・クーラン、グレイス・レディ、千葉洋子、鶴丹谷三千代、原寛、越前谷洋子、深澤秀男、深澤多紀子、馬場一郎、山口貴伸、中原真澄